

中国で迎えた新年

吉田 想陶

2013年を迎え、新たな年が始まりました。山西大学では1月14、15日に期末テストが行われ、17日から3月3日まで長い冬休みが始まりました。今回のレポートでは初めて国外で新年を迎え感じたことを報告させていただきます。

■中国で迎えた新年

中国では、旧暦の1月1日、(今年は2月10日)が「春節 chun jie」(新年)とは聞いていましたが、「実際に西暦の1月1日は中国の人々にとってどのような感覚なのだろうか?」と疑問に思い友人に話を伺ってみました。友人の話では、中国では旧暦に基づいて新年を祝うため、西暦での1月1日はあまり重要視されていないそうです。最近では外国文化に触れる機会も増え、若い人達の間では12月31日の夜に友人と集まって新年を迎える人もいと聞きました。私たち留学生は新しい年を迎えるのだから盛り上がりよう。という事になり、それぞれ自国の簡単なゲームを教えあいながら新年を迎えました。中国では旧暦の1月1日が重要視されているようで、やはり西暦の1月1日には新年のお祝いムードはあまり感じられません。一般的には春節の前に実家に帰って家族と過ごすそうで、前日の夜(今年は2月9日)には花火や爆竹を鳴らして新年を祝い、最も盛り上がるそうです。友人には「とてもうるさいから気を付けて!」と言われました。



12月31日、寮の友人と食事に来た時の写真
(なぜかクリスマスの飾りがまだ残っています)

■ 春節に欠かせない餃子

春節の日には一般的に餃子を食べる習慣があるそうです。友人の話を聞いて面白と感じたのが、その友人の家庭では、春節の日には餃子を食べるため、前日に家族みんなでたくさんの餃子を作るそうです。そのうち何個かの餃子の中に1角（中国のお金、見た目は日本の1円より少し小さい）を入れ、その1角の入った餃子を食べた人はとても縁起が良く、この一年を順風満帆に過ごすことが出来る。といった意味が込められているそうです。「餃子の中にお金を入れるの？」と驚きましたが、とても面白い習慣だと思います。



左が1円 右が1角

（他にも5角、1元と硬貨はありますが、餃子に入れるのは一番小さい1角だそうです）

一つ一つ行事を迎えるたびに中国の文化や習慣に触れることが出来るので、あまり中国文化に詳しくない私にとっては新しい発見が多いです。実際に春節の日には1月1日に比べてどれぐらい盛り上がるのか、今からとても楽しみです。